

夕刊 九月二十六日 發行日六十二月九

# 彼等の死

前田勝江

娘 彼等はしばらく二人とも沈黙を續けた。だが彼等としてみても沈黙して居るわけには行かない。やはらお互にどんな事でもいふから話して見たいと思つたので誠哉は先づ話しかけた。「マチ子さん！今日出て来た時お母さんに何んとか言はれた？」

「言はれたワ一寸、せつかく佐藤さんと買物に行くつもりだつたのに友達の家へ行くなんて——友達約東なんて一回ぐらひ破子のこの跡はいつと我に返つたつていふつて——」

「それだけよ！——」

「誠哉はマチ子、母、佐藤と云ふトロオに付いて考へて見な。マチ子の母が佐藤に對してどんなに信用して居る事か、結局マチ子の母としてはマチ子を佐藤の妻にした氣持である事は、彼としてもはつきりわかつて居た。それで目下こうして居る事が果していふ事だらうか？——と言ふ事を考へた」

「マチ子の母がどんなに佐藤にマチ子をやりたと言つても、マチ子自身がいやなら仕方がないはずだ。そして又病身の俺に對しては——」

# 詩境短歌會詠草

兼題「秋」

○秋の夕酒けて嬉しき友を待つ集ひの會場は  
○秋風の家 田中賢介  
○秋の夕酒けて嬉しき友を待つ集ひの會場は  
○秋の夕酒けて嬉しき友を待つ集ひの會場は  
○秋の夕酒けて嬉しき友を待つ集ひの會場は

# 浪人長屋

日枝武志作

(201) 月草 蓮子 西へ走る街道の、西側は一面の荒野で、すゞや女郎花や、桔梗などが朝露に濡れて咲きだれてゐた。早く、呼び戻さねば街道を西へ、息をはづませて、お蝶は一枚に駈つて内へ追いついて斬り合ひがはじまつてゐるかも知れぬ。そうおもつて気が氣でな



# 社會の今日

△英國に於て始めて汽車運轉す(一、八月二十五) △希臘王制憲王(大正十二) △蘇俄文、吳德林滿洲國に叛旗を翻す(昭和七)

巴川濱町河岸に潮さして、秋日に動く釣竿のさき

生田 蝶介 淡路島波黒々と亥中月

靈峰羊羹 小川郵政前 平屋賣店

小學生用(長ズボン付) A.....90 B.....1.10 C.....2.50 中學生用(長ズボン付) D.....3.50 E.....6.80 小かや洋服店

女給さん大募集 高給者は金拾貳圓迄を給す 御希望の方は大至急御來談下さい。 平町三丁目 電話一七七番

目科療診 一、齒科 一般 保存科、補綴科、齒科工專、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿腫科、レントゲン科

中野齒科醫院 院長 日本齒科 中野憲次 日本齒科 西川 誠 平町町町松月堂向と 電話五〇九番

小商店員數名募集 十三歳より十七歳迄 心身強健なるもの 獨立の際には必ず援助す (詳細は磐城新聞社宛照會の事) 東京日本橋區大傳馬町三丁目登番地式 内外各種米物商

藤掛商店 電話花(67) 電話二番 電話三番 電話四番 電話五番 電話六番 電話七番 電話八番 電話九番 電話十番

川井内科診療所 平南町(電話二四三) 川井安子

フタバ商會 平南町(電話二四三) 永年修繕費のから 兩車の御利用を切に御願ひ申上げます

機關銃印の自轉車 日章旗の如く輝く特長 一、全部鋼鐵、特種壓搾、製 二、自動注油、防水防塵、裝置 三、ヘッド及びホイールのスプリング作動

新界に比なき數多の特長を有するが故に耐久力は普通車の五倍以上。而かも道路でも振動を感せず。その輕快さは本車のみ有する特長で製作者の苦心の存する所でありませぬ

機關銃印の自轉車(宣傳中) 五十八圓

戰車の如く頑強 だと御評判を賜りました

フタバ式超重量リヤカー(宣傳中)廿五圓 永年修繕費のから

兩車の御利用を切に御願ひ申上げます

平南町(電話二四三) 電話一七七番

貴方の御家庭に 本會を御利用下さい。 直に家政婦を派出します。 料金は極めて低廉です。 妊産婦の御家庭へ 御病入の御家庭へ 留守、居番、放學や、年寄やお子さんの付添

上原家政婦會 平町町町三丁目(電話二二三) 會主 上原通子

吸入用酸素 純度99% モリサシ マス ハカリ 体温器 寒暖計 視察器

開内藥局 電話四〇番

木村病院 平町町十九番地 入院隨意 病室完備 電話一六四番

郡山腦病院 郡山市外大槻村針生 電話九二五番 院長 金森 五郎

貸切自動車ハ 親切迅速ノ 平夕クシ 電話七九番ニ 御用命ヲ願ヒマス 平三丁目警察署通り 遠出ノ際ハ又御相談ナ

精神科 腦脊髄科 神經科 郡山縣より約三十丁 安積中學より約五丁

